

資源循環型施設整備事業に係る環境影響評価方法書の説明会 概要 【圏域全体①】

1 開催概要

開催日時	令和4年5月23日（月）19：00～20：15	
開催場所	サントミュージゼ	
出席者	住 民	61名（圏域住民58名）
	行 政	土屋広域連合長、吉澤上田市副市長、他関係職員12名
	報道関係	3社
説明要旨	①環境影響評価 方法書の手続と今後の手続 ②事業計画の概要	

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	方法書（事業の名称）について	ごみ焼却施設はクリーンセンターや清掃工場と呼ぶのが一般的だが、当施設を資源循環型施設と呼ぶ理由は何か。	ごみの減量を前提として、焼却処分せざるを得ないごみから発生する熱エネルギーを温水、蒸気、又は電気などに再利用する。廃棄物処理施設としての役割のほか、熱エネルギー回収施設として資源を循環させたい思いを込め、資源循環型施設と呼んでいる。
2	方法書（対象事業実施区域）について	清浄園や上田クリーンセンターのような環境に影響を与えると思われる施設のある場所で、環境影響評価を実施する意味があるのか。	資源循環型施設整備事業の実施による環境への影響がどの程度上乗せになるのか予測・評価するため、環境影響評価得を実施している。上乗せしても環境基準が守られているかを確認していく。
3		建設候補地ではなく建設予定地の間違いではないか。	現段階では建設候補地である。

No	項目	質問・意見等	回答
4	方法書評価項目 (一般大気質)に ついて	調査期間は各季節3か月のうち7日間で十分か。調査は7日間連続した値や積算値を測定するのか、または時間単位の測定をするのか。	「長野県環境影響評価技術指針マニュアル」に沿って設定した。7日間測定するものについては、1時間平均値を算出し、降下ばいじんは30日間の積算値を算出する。 一般環境大気測定局(上田局)において通年を通して連続測定しており、そのデータと比較することで、7日間のデータの信頼性を検証する。
5		上田クリーンセンター稼働時と、資源循環型施設稼働時の大気観測データがどのように変わるかという評価をしてはどうか。	他に利用できるデータがないか確認し、活用できるか検討していく。
6	方法書説明会について	地元として生塚自治会を含めた、上田市西部地区を対象とした説明会を開催してほしい。	過去からの経過を踏まえて、清浄園及び下水道終末処理場の公害防止連絡員会議の構成団体である秋和、上塩尻、下塩尻、諏訪部の4地区を地元としての協議相手と考えている。 上田市西部地区の自治会連合会の皆様と協議する機会を予定しており、本日いただいた御要望を伝えさせていただく。
7		地元はもちろん、圏域全体の住民に広く説明すべきだ。	上田地域広域連合を構成する全ての市町村において、本日の圏域全体住民を対象とした方法書説明会開催について広報した。その結果、多くの皆様に御出席いただき感謝している。今後も丁寧な説明を重ねていく。

No	項目	質問・意見等	回答
8	施設設計について	<p>現在稼働している3つのクリーンセンター処理能力の合計270トン/日に対し、資源循環型施設の処理能力を約半分の144トン/日と算定した根拠を教えてください。</p>	<p>可燃ごみについては、ごみ処理広域化計画で将来の人口減少を加味したごみ減量化目標値から設定している。</p> <p>その他の要因として、災害廃棄物の処理量を加算して144トン/日に設定した。</p>
9		<p>上田クリーンセンターの煙突高さはどれくらいか。</p>	<p>59メートルである。</p>